

令和4年度事業報告

自 令和4年4月1日
至 令和5年3月31日

一般社団法人日本透析医学会

目 次

I. 当法人の事業の状況

常置委員会活動

1. 総務委員会	(1)
2. 財務委員会	(6)
3. 編集委員会	(6)
4. 学術委員会	(7)
5. 統計調査委員会	(9)
6. 専門医制度委員会	(10)
7. 国際学術交流委員会	(12)
8. 評議員選出委員会	(13)
9. 保険委員会	(13)
10. 倫理委員会	(14)
11. 腎不全総合対策委員会	(14)
12. 危機管理委員会	(15)
13. 研究者の利益相反等検討委員会	(16)
14. 男女共同参画推進委員会	(16)
15. 感染対策委員会	(17)

II. 処務の概要

① 役員等に関する事項

(1) 理事	(19)
(2) 監事	(19)
(3) 評議員	(20)
(4) 退任した役員等	(25)
(5) 役員等の報酬等	(25)

② 会員に関する事項	(26)
------------	------

③ 職員に関する事項	(26)
------------	------

④ 役員会等に関する事項	(26)
--------------	------

⑤ 許可, 認可, 承認等に関する事項	(31)
---------------------	------

⑥ 重要な契約に関する事項	(31)
---------------	------

事業報告の附属明細書

1. 役員以外の法人等の業務執行理事等との重要な兼職状況	(32)
2. その他の記載事項	(33)

I. 当法人の事業の状況

常置委員会活動

1. 総務委員会

1) 年次学術集会

第 67 回日本透析医学会学術集会・総会は、東京女子医科大学血液浄化療法科 教授 土谷 健会長が主宰し、2022 年 7 月 1 日（金）、2 日（土）、3 日（日）の 3 日間、パシフィコ横浜を会場として開催した。

（※一部のプログラムをオンデマンド配信（7 月 1 日（金）～ 29 日（金））を併用した。）

今回のテーマは「透析療法の SDGs を求めて」を掲げて開催し、参加者は 16,967 名であった。

〈会長講演〉

「透析医療の SDGs を求めて」

〈会長招聘講演〉

「林学者本多静六に学ぶ 持続可能な社会の構築」, 「透析患者になってから見えた世界の変化」

〈招請講演〉

「Renal Nutrition -Where It Has Been and Where It Is Going-」, 「Up-To-Date Contents in the Field of Dialysis and Chronic Kidney Disease : From Conservative Management Delaying Dialysis to Incremental Dialysis」, 「Present and future strategies of world PD from ISPD and Editor-in-chief PDI」, 「Vascular and bone health in CKD-MBD : a European view」, 「Updates on hemodiafiltration worldwide : practices」, 「outcomes and mechanisms」, 「Green Nephrology」

〈特別講演〉

「人生 100 年時代を迎えた透析患者の健康寿命延伸のための CKD-MBD の治療戦略」, 「日本の腎移植 up to Date」, 「EBM の原点からその先～ Shared Decision Making とは何か? ～」, 「透析の食事・栄養管理と SDGs を求めて」, 「今後の医療経済を解析する」, 「アンサンブリングシンデレラでは語られないだろう、アンサンブリングな薬剤師業務」, 「令和 4 年診療報酬改定について～引き続き『重症化予防』と『共同意思決定』の推進へ～」, 「透析の見合わせに関する現状と課題～全国実態調査から～」, 「透析看護の SDGs を求めて～社会の発展に透析看護が寄与できること～」, 「日本のメディカル AI の現況の総論」, 「我が国の臓器移植制度の現状と今後の展望について」

〈Plenary Session〉

「地球温暖化・慢性腎臓病・透析医療」, 「透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドラインの改訂に向けて」, 「透析患者の Covid-19 ワクチン接種後の抗体価の推移、AI を活用した VA 管理の取り組み」

〈東京女子医科大学企画〉

「透析医療の女性スタッフとして～ Life work balance ～ 第 1 部」, 「透析医療の女性スタッフとして～ Life work balance ～ 第 2 部」, 「女性と透析」

〈教育講演〉

「貧血」, 「透析（関連）排水の適正管理」, 「コロナ感染症」, 「カルニチン」, 「アフエリシス」, 「腎臓リハビリ、運動療法」, 「アクセス」, 「臨床倫理からみた医療安全」, 「腎移植 up to date」, 「フレイル」, 「腹膜透析 1」, 「腹膜透析 2」, 「モニタリング」, 「認知症」, 「サイコネフロロジー」, 「フットケア」, 「感染対策」, 「診療報酬」, 「AKI」, 「心不全・新薬」, 「腎移植の周辺領域」, 「栄養管理の理論と実践」, 「地域包括」, 「特定行為」, 「終末期の看護」, 「透析医療におけるヒューマニティ」, 「糖尿病」, 「心血管疾患」, 「透析患者の泌尿器」, 「透析と炎症」, 「医療倫理と臨床倫理」, 「ADPKD」, 「かゆみ」, 「Onconephrology」, 「I-HDF」,

「HDF」, 「CKD-MBD」

〈合同企画シンポジウム〉

「AI をもとに、透析療法の SDGs を考える」, 「AKI の病態生理および現在の評価、治療法の up to date」, 「高齢透析患者の臨床像、認知機能と CKM, ACP」, 「Minor nutrients の管理」, 「HDF 療法：本邦とヨーロッパの違いと将来展開」, 「在宅医療としての PD」, 「PD 認定医 連携認定医」

〈シンポジウム〉

「透析患者の足病診療ナビゲーション」, 「透析患者の糖尿病診療～進化する糖尿病診療はどこまで透析患者に導入応用できるか～」, 「基礎科学で支えるあたらしい HDF の未来」, 「小児 ESKD 患者の予後と移行期医療」, 「透析患者の脳血管障害」, 「新たな再生医療の地平線を目指して」, 「選ばれ続ける HHD を目指して」, 「看護師特定行為の実践と課題」, 「透析療養者の生涯を支える～LIFE を支える Profession とは何か?～」, 「透析領域での臨床工学技士が関係するタスク・シフト／シェアの実際と課題」, 「血液浄化における臨床工学技士各種認定資格の現状と今後の展望」, 「PDOPPS の Sustainable Development Goals (SDGs)」, 「古くて新しい血圧管理」, 「PD の基礎から応用」, 「腎移植 up to date」, 「高齢透析患者を支える医療・介護・福祉」, 「スタッフ教育」, 「療法選択における看護師の役割」, 「AI の医療応用 (AI 研究者より)」, 「AI 技術の最先端 (AI 企業より)」, 「透析・腎移植患者におけるワクチン接種の現状と課題」, 「心血管疾患の新たな潮流」, 「バスキュラーアクセス血管内治療の新時代を考える」, 「腎移植前後のケアのポイント」, 「エンドオブライフ・ケア」, 「透析の歴史」, 「サイコネフロロジーの SDGs：良質な心理的ケアを透析患者に」, 「SDM・ACP」, 「よりよい長時間透析を目指して」, 「日本のメディカル AI の現況の各論」

〈日台韓合同シンポジウム〉

「Vascular Calcification」

〈ワークショップ〉

「CKD における骨を巡る疑問と難問」, 「災害対策 (主に豪雨災害)」, 「PD 合併症対策の Sustainable Development Goals (SDGs)」, 「本邦の透析医療を構築するー令和 4 年診療報酬改定を踏まえてー」, 「アフエレス」, 「透析患者の便通対策」, 「Assisted PD」, 「医療連携 (遠隔管理・移植)」, 「医療連携 (高齢者・地域包括)」, 「腹膜透析における臨床工学技士の役割と展望」, 「臨床工学技士の education system スタッフ教育」, 「意思決定プロセス」, 「透析関連排水に関する諸問題とその対策」, 「PD の多職種連携」, 「看護師が看るフットケア～透析室で管理する実践的フットケアのすすめ～」, 「CKM とデスカンファランス」, 「独居高齢透析患者をどう支えるか～看護の立場から～」, 「教育講座「AI の基礎と医療現場における AI 活用事例」基礎」, 「臨床研究の新しいデザインと統計手法」, 「貧血治療が抱える問題点」, 「「食べる」ための食事療法・栄養管理とは」, 「AVF 手術の見える化 動画セッション」, 「モデルケースから始める腹膜透析」, 「サルコペニア・フレイルに対する腎臓リハビリテーション栄養の現状と展望」, 「看護師が看る栄養管理・内服管理」, 「末期腎不全の緩和ケア」, 「教育講座「AI の基礎と医療現場における AI 活用事例」応用」

〈学会・委員会企画〉

「透析会誌と Renal Replacement Therapy の充実を目指して」, 「Year in review 2021」, 「TSUBASA PROJECT」, 「透析患者における COVID-19 ～2 年半を振り返って～」, 「SDGs を踏まえた腎不全患者の QOL を再定義する」, 「新しい CKD-MBD ガイドラインは何を目指すか」, 「組織 COI の在り方、取り組み方について」, 「次の「透析患者の糖尿病治療ガイド」改訂に向けてやるべきこと」, 「透析医療における診療指針 (GL, BP, 提言) の在り方」, 「血液浄化関連技術における SDGs の模索」, 「統計調査の将来を考える」, 「腎性貧血ガイドライン」, 「日本透析医学会専門医制度の課題」, 「透析療法における医療安全～長期留置カテーテルへの対応を考える～」, 「透析災害対策の課題と先進事例」, 「令和 4 年診療報酬改定と明日への希望」, 「血液浄化器の機能評価として」, 「日本腎代替療法医療専門職推進協会への期待」

〈国際学術交流委員会企画〉

「世界における透析患者の COVID-19 の現状とその対策」, 「アジア諸国における透析医療経済の現状」

〈よくわかるシリーズ〉

「栄養療法」, 「栄養管理の実際」, 「災害対策」, 「透析基礎 1」, 「透析基礎 2」, 「身体機能障害の基礎」, 「腎性貧血」, 「よくわかる医療制度」, 「透析室の感染予防」, 「腎不全の外科」, 「医療安全」, 「よくわかる AI」, 「小児, 妊娠出産」, 「循環器」, 「療法選択外来 1・2」, 「腹膜透析」, 「血液透析」, 「在宅血液透析」, 「HHD 関連」, 「CKD-MBD 1」, 「CKD-MBD 2」, 「体外循環」, 「一般・シャント 1」, 「一般・シャント 2」, 「感染・災害対策」, 「CKD と腎代替療法」, 「腎移植」, 「移植の実際」, 「患者登録」

〈企業共催シンポジウム〉

「CKD-MBD トータル管理 ～これからの P, Ca, PTH 管理をどう考えていくべきか?～」, 「Role of uremic toxin renal failure and blood purification therapy」, 「慢性腎不全におけるシームレスな診療」, 「CKD-MBD と腎性貧血の治療最前線」, 「透析アミロイド症の診断と治療」, 「今こそ, 腹膜透析 (PD) 療法を考える」, 「透析合併症から考える透析液組成」, 「AVG を長持ちさせるための作製・管理・修復」, 「腎性貧血治療の up to date」, 「CKD-MBD 治療のベストプラクティスを考える」, 「世界水準の在宅透析とは [The World Class in Home Dialysis]」, 「至適な副甲状腺機能を求めて」, 「DOPPS シンポジウム」

〈企業セミナー〉

ランチョンセミナー, スイーツセミナー, イブニングセミナー

〈その他〉

7月1日 (金) 医療安全講習会

7月2日 (土) 感染対策講習会

7月3日 (日) 医療倫理講習会

※ 7月1日～29日 (金～金) オンデマンド配信 日本透析医学会認定透析液水質確保に関する研修

2) 通常総会・臨時総会

第 67 回通常総会開催：2022 年 6 月 30 日 (木) 16:00～横浜市西区みなとみらい 1-1-1 パシフィコ横浜会議センター 301+302 において、開催した。定款第 30 条に基づき、定足数以上の評議員の出席が確認され、本総会は適法に成立した。定款第 28 条に基づき、第 67 回日本透析医学会学術集会・総会会長である土谷 健会長が議長を務めた。

各常置委員会委員長から資料に基づき、令和 3 年度事業報告および令和 4 年度の事業計画の報告があり承認された。令和 3 年度貸借対照表及び正味財産増減計算書等、監事による監査報告があり承認された。定款施行細則第 2 条第 2 項に基づき、名誉会員として熊谷裕生先生、土谷 健先生、新田孝作先生、森石みさき先生、吉田一成先生が理事会で承認され、本総会に推薦され承認された。令和 7 年度第 70 回日本透析医学会学術集会・総会会長候補として大阪大学 猪阪善隆先生が理事会で選任され、本総会で承認された。

臨時総会開催：2022 年 6 月 30 日 (木) 17:40～通常総会終了後、引き続き新評議員による臨時総会を開催、定款第 28 条に基づき、臨時総会の決議により出席評議員の中から武本佳昭先生が議長を務めた。定款第 13 条に基づく役員を選任において、特例により事前投票を実施した投票用紙を議場にて開票し役員 (理事 20 名、監事 3 名) を選任した。定款施行細則第 10 条第 2 項に基づき、推薦枠理事として高橋直子評議員と廣谷紗千子評議員が推薦枠 2 名の女性理事候補として理事会で選任され、本総会で承認された。

また、理事会で承認され、第 67 回日本透析医学会学術集会・総会に名誉会員として推薦され承認された熊谷裕生先生、土谷 健先生、新田孝作先生、森石みさき先生、吉田一成先生の名誉会員表彰と第 67 回日本透析医学会学術集会・総会の学会賞、奨励賞、コメディカルスタッフ研究助成者に、2022 年 7 月 2 日 (土) 会議センターメインホールで授賞式を行い、学会賞受賞者の記念講演を開催した。

3) 役員会

(1) 常任理事会・理事会開催：2022 年 5 月 27 日 (金)・6 月 30 日 (木)・8 月 5 日 (金)・12 月 9 日 (金)・2023 年 3 月 24 日 (金) に開催

(2) 監事による監査会開催：2022 年 5 月 19 日 (木) に開催

4) 透析施設会員名簿の発行

透析施設会員名簿のデータを各施設から集め発行の手続きをとった。

5) 小委員会

(1) 情報管理小委員会（脇野 修委員長）

学会ホームページの円滑な運営，内容の充実化において，学会活動ならびに関連情報の迅速な公開・更新を行った。

(2) 透析医療専門職資格検討委員会（酒井 謙委員長）

慢性腎臓病療養指導看護師・腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師制度・日本栄養士会が実施する管理栄養士専門分野別人材育成（CKD分野）に関しては，本年度問題提起されず活動を行わなかった。

腎代替療法専門指導士については，日本腎代替療法医療専門職推進協会と連携を取り，各透析医療専門職が指導士資格を取得できるよう努めた。

(3) 統計調査のあり方小委員長（武本佳昭委員長）

① 統計調査データのWEB収集及びEDC(electric data capture)システムに関わる調査等を開始した。

② 本委員会及び統計調査委員会，統計解析小委員会の各委員に対し，わかりやすく理解するためEDCシステム導入についての講演会を実施した。

(4) 発展途上国の透析スタッフ育成プログラム小委員会（山下明泰委員長）

① 東南アジア8か国の透析スタッフ（医師，看護師，その他）に，わが国の施設で研修を実施するプログラムは，コロナ禍の影響を受け，2019年度分から4期連続で中止した。

② 2021年度から計画してきたオンライン研修は，研修予算の流用について理事会承認を経て，2022年11月にカンボジア，12月にベトナム（対面式），2023年1月にモンゴルで実施し，それぞれに高い評価を得た。各プログラムの参加者には日本透析医学会理事長のサイン入り参加証明書を発行した。

(5) 本学会のあり方小委員会（武本佳昭委員長）

① 公益法人移行に関しては，今後も継続審議していくこととした。

(6) e-ラーニング検討小委員会（菅野義彦委員長）

① 第67回日本透析医学会学術集会・総会の教育講演を収録し，会員専用ページMyWebにアップし，専門医は単位取得できるようにした。

また，専門医以外の者もスキルアップのため視聴できるようにした。

② 運用については，ホームページ上で「e-ラーニング配信開始のお知らせ」を掲載し，本学会の会員（正会員，施設会員，賛助会員）へ周知した。

③ 単位の認定に関しては，出題された5問全てに正解することとし，全問正解するまで何度も冒頭に繰り返し繰り返し視聴できるようにした。

(7) 病気腎移植に関する検討小委員会（酒井 謙委員長）

2017年10月29日病気腎移植（修復腎移植）が先進医療Bとして厚生労働省に認可された。これに対して，日本泌尿器科学会，日本腎臓学会，日本透析医学会，日本臨床腎移植学会，日本移植学会の5学会は合同で，外部委員からなる適切な当該医療の検証（外部委員派遣）が必要であるとの声明を出した。申請医療機関からの申請に対して，日本透析医学会は事前検証としての外部委員選定を2018年度に行った。

2022年度の進捗であるが，現在まで先進医療B症例は，当該医療機関から申請されていない。なお当該年度における，同先進医療Bの提出はない。

(8) 書籍発行運営委員会（長谷川元委員長）

日本透析医学会ブックシリーズとして，今後も本学会が発行する書籍等出版事案について検討していくこととしていたが，本年度は該当がなかった。

(9) 新型コロナ感染対策合同委員会（竜崎崇和委員長）

日本透析医会，日本腎臓学会と合同で活動している「日本透析医会・日本透析医学会・日本腎臓学会 新

型コロナウイルス感染対策合同委員会」に、日本透析医学会感染対策委員会から数名の委員を派遣し、他の2学会と協調し、透析患者の感染状況の報告を取りまとめ、開示し得る情報や感染対策などをホームページ等にて会員や一般市民に開示・周知した。

(10) 台湾, 韓国, 本学会3学会シンポジウム推進小委員会 (土谷 健委員長)

① 第67回日本透析医学会学術集会・総会において、同シンポジウムを開催した。

日程：2022年7月1日 15:00

テーマ：「血管石灰化」

日本側座長：大矢昌樹先生 (和歌山県立医科大学)

演者：山田俊輔先生 (九州大学)

韓国, 台湾からそれぞれ座長, 演者が発表

② 韓国腎臓病学会

日程：2022年5月26~29日

テーマ：「AKI」

日本側座長：平和信仁先生 (横浜市立大学)

演者：阿部雅紀先生 (日本大学)

韓国, 台湾からそれぞれ座長, 演者が発表

③ 台湾腎臓病学会

日程：2022年12月11日

開催地：台北市内で開催

テーマ：「DKD」

(1) 協定の調印者：武本佳昭理事長

(2) 座長：武本佳昭 (大阪公立大学)

(3) 演者：脇野 修 (徳島大学)

韓国, 台湾からそれぞれ座長, 演者が発表

(11) VA 血管内治療認定医制度検討小委員会 (深澤瑞也委員長)

2021年度に、日本透析医学会理事会においてVA血管内治療認定医制度が発足した。

上記に基づいて認定制度の規則、施行細則などを2021年度に作成し、申請受付・審査事務業務・認証に関する業務をプランニングウィル社に依頼した。またその後委員会の要望に基づき申請受付・審査のデジタルシステム開発を依頼し納品を受けた。

第1回の募集を2022年9月1日から30日までの期間に申請を受け付けた。申請者は246名であった。

その後、無作為抽出症例3例を提示していただき、委員による審査を行った。疑義のある申請者には追加資料の提出を要求し、再度審査を施行。本認定は現時点では薬剤塗布バルーン使用のために必要な資格であり、直接診療報酬に紐づいた当会初の資格であることから厳密な審査を行った。最終的に委員全員による合同審査を行い233名の合格者(13名の不合格者)を理事会に報告した。

審査においていくつかの問題点が生じ、それに対して2023年度前半までに改善点を抽出し2023年度申請に反映させることとした。特に問題となったのはPTA手技に関する記録の不備が多くあった。本年度は多くの専門医に本資格を有して頂き積極的な医療展開を求める目的から手技の事実が確認できる場合には可としたが、本来本手技はK616-4-1/2に規定される手術手技であり、医療法に則った手術記録が求められるものとする。このため次年度の申請に対してはこの点をしっかりと明文化し厳格な判定が行われるようにすることとした。また疑義に関しては申請者にわかりやすいQ & Aを作成することとした。

6) 学会との連携, 協力関係

(1) 日本医学会, (2) 日本医学会連合, (3) 日本医師会, (4) 日本慢性腎臓病 (CKD) 対策協議会, (5) 透析療法合同委員会, (6) 内科系学会社会保険連合, (7) 外科系学会社会保険連合, (8) 臓器移植関連学

会協議会, (9) 末期腎不全治療説明用小冊子作成, (10) 糖尿病性腎症合同委員会, (11) 登録腎生検予後調査検討委員会, (12) 先行的献腎移植申請検査会, (13) 透析医療に関するグランドデザイン, (14) 日本透析医会との連絡協議会, (15) 日本医療器材工業会と日本透析医学会の連絡協議会等と協力, 連携を密にしている。

2. 財務委員会

2022年度事業として, 日本透析医学会を健全に発展させることを目指して運営した。また, 各事業に対して経費節減を心がけ, 2023年度予算を作成した。

3. 編集委員会

1) 公式和文誌「日本透析医学会雑誌」について

- (1) 日本透析医学会雑誌を毎月1冊, 年間12冊を発行した。
- (2) 学術集会・総会特別号(抄録集)をSupplementとして発行した。ただし, 郵送は希望者のみに限定した。
- (3) 年間1回の特集号として, 「コロナ禍における腎不全診療の現状と展望」を2022年和文誌55巻2号に掲載した。Invited Reviewとして「透析患者の脳卒中と心房細動」を55巻5号に, 「透析患者のProtein-energy wasting, サルコペニア, フレイルに関する最近の話題」, 「透析患者の骨粗鬆症管理」, 「赤血球造血因子製剤と低酸素誘導因子水酸化酵素阻害薬の使い分け」, 「腹膜透析と新型コロナウイルス感染症」の4編を55巻6号に, 「CKDにおける認知症の対策と治療」を55巻7号に, 「新たな中分子量物質分類と血液浄化法の位置づけ」を55巻9号に掲載した。Invited Reviewは計7編掲載した。
- (4) 委員会報告として, 「腎不全総合対策委員会報告 透析患者の糖尿病管理に関する実態調査」を2022年和文誌55巻4号に, 「危機管理委員会報告 With コロナ時代の災害対策」を55巻7号に, 「腎不全総合対策委員会報告 透析患者 QoL 向上のための重要アウトカムを巡る患者と医師の意識調査」を55巻11号に, 「学術委員会 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会報告 血液透析濾過器の性能評価と使い分け」を2023年56巻3号に, 合計4編掲載した。
- (5) 編集委員会企画として, 「東京都酸素・医療提供ステーション(高齢者等医療支援型施設)におけるCOVID-19患者の透析医療」を2023年和文誌56巻1号に掲載した。
- (6) 統計調査委員会の年末調査報告「わが国の慢性透析療法の現況」を2022年和文誌55巻12号に掲載した。
- (7) 学術委員会の「Dialysis Therapy, 2021 year in review」を2022年和文誌55巻12号に掲載した。
- (8) 2022年の掲載論文は, 原著24編, 総説8編, 症例報告23編, その他(短報, 透析看護・技術, 研究速報, ガイドライン・委員会報告, Letter to editorなど)22編の計77編の掲載であり, 2021年の計85編を下回った。

2) 公式欧文誌「Renal Replacement Therapy」(RRT)について

- (1) 引き続きオンラインのOpen Access Journal(著作権はCC-BY)として発行した。
- (2) Scopus, DOAJ, Web of Scienceなどの主要なAbstract & Indexingサイトに収録されている。
- (3) PMC(PubMed Central)への掲載再申請を2020年に行ったが, 不採択の審査結果であった。2023年6月に再申請予定。
- (4) MEDLINEについては, Springer Nature 本社より全てのジャーナルで掲載申請を停止する指示が出されており, 未申請の状態である。
- (5) RRT誌が新たに日本血液浄化技術学会の公式英文誌として採用された。2022年6月, Springer Nature社と日本血液浄化技術学会の間でAffiliation Agreement締結済み。
- (6) 2022年度(2022年4月~2023年3月まで)では, 144編の論文投稿があった。以上より目標の年間論文

投稿数 100 を達成できた。

- (7) 2022 年 (2022 年 1 月～2022 年 12 月までの集計) では、論文採択率は 41%であった (2021 年度は 60%)。
- (8) 2022 年 (2022 年 1 月～2022 年 12 月までの集計) では、わが国を含む世界 32 ヶ国からの投稿があった (2021 年度は 17 개국)。

4. 学術委員会

1) 学会賞・奨励賞の選出

学術委員の投票で候補論文を official journal『日本透析医学会雑誌』55 巻 (2022 年発行) と Renal Replacement Therapy (RRT) Vol.8 2022 の中から合計 14 編の候補論文を選定した。4 月上旬までに評議員に 14 編の中から推薦論文 2 編 (1 位, 2 位) を選出し、その集計結果と、別に募集した公募論文 (4 編) の中から 4 月 24 日の学術委員会で、木本賞と奨励賞を選出した。

2) 学術委員会活動 (ガイドライン, 提言等の作成, 広報活動) 等に関する協議

以下の学術委員会の会合を定期的に開催し、学術委員会関連小委員会と共同して、実施すべき学術活動に関して協議・遂行した。

3) 学術委員会 学術専門部小委員会 (小岩文彦委員長)

- (1) 2015 年から開催している Dialysis Therapy, 2021 year in review を第 66 回日本透析医学会学術集会・総会 (2022 年 7 月 1 日) において委員会企画として開催した。司会 友 雅司 (大分大学), 小岩文彦 (昭和大学藤が丘病院), 1) 感染症 菊地 勘 (下落合クリニック), 2) 貧血 倉賀野隆裕 (兵庫医科大学), 3) 糖尿病 阿部雅紀 (日本大学), 4) 栄養 森 克人 (大阪公立大学), 5) CKD-MBD 大矢昌樹 (和歌山県立医科大学), 6) PD 長谷川毅 (昭和大学), 7) HD, HDF 友 雅司 (大分大学), 8) 循環器 藤崎毅一郎 (麻生飯塚病院), 9) アクセス 小川智也 (埼玉医科大学)
- (2) 各演者の先生に Dialysis Therapy, 2021 year in review の発表内容を原稿にして透析会誌に掲載した。

4) 栄養問題検討ワーキンググループ (神田英一郎グループ長)

WEB 会議を開催し、今後の方針について検討した。

課題①「慢性透析患者の食事療法基準 2014 年」の見直し

慢性透析患者の食事療法基準が 2014 年に発行され、8 年以上経過した。透析技術, 社会環境, 人口構成などが, 急速に変化している。また, 新しいエビデンスも報告されるようになった。これらの状況を鑑み、「慢性透析患者の食事療法基準」を見直す方針とした。

課題② 大塚製薬工場との臨床研究

① の課題について検討した際、透析患者の栄養状態に関する基本的データが不十分であることが判明した。そこで、大塚製薬工場による研究支援をうけ、透析患者の栄養摂取量および予後を調査する臨床研究を行うことといたしました。この調査結果を踏まえて課題①を行う予定である。2023 年 2 月現在、研究計画を立案し、研究の体勢を調整中である。

5) 腎性貧血ガイドライン改訂ワーキンググループ (倉賀野隆弘グループ長)

第 2 回慢性腎臓病に伴う貧血治療ガイドライン改定委員会を開催 (2022 年 5 月 24 日)。

- (1) 第 67 回日本透析医学会学術集会・総会の学術委員会企画において倉賀野委員長が「透析医療における診断指針 (GL, BP, 提言) のあり方」で腎臓病に伴う貧血治療ガイドラインの改訂方針を報告。
- (2) 第 67 回日本透析医学会学術集会・総会 学術委員会企画において本田浩一副委員長, 林 晃正委員, 小川千恵委員, 田中哲洋委員が進捗状況を報告。
- (3) 第 3 回慢性腎臓病に伴う貧血治療ガイドライン改定委員会を開催 (2022 年 9 月 10 日)。
- (4) 第 4 回慢性腎臓病に伴う貧血治療ガイドライン改定委員会を開催 (2023 年 1 月 21 日)。

- 6) 慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン改訂ワーキング（深川雅史グループ長）
最初に、最近の KDIGO ガイドラインの動向も考慮し、エビデンスが十分あるかによって、ステートメントとクリニカルポイントをはっきり分けて記述する方針とした。全体を7章に分け、それぞれの章の担当委員と全体の心血管リスクと総観する委員に加え、SRを担当する若手を選出、依頼した。これまで章毎にウェブ会議を複数回行い、エビデンスの整理と、データベースの解析を進めつつ、CQになりうるものは並行してSRを開始した。2023年1月29日に合同グループ会議を対面（一部のみウェブ）で開き、進捗状況、重複のチェック並びに解析の妥当性の検討を相互に行い、一部ステートメント案を提示するところまで進行した。
- 7) 血液透析患者の糖尿病治療ガイド改訂ワーキンググループ（阿部雅紀グループ長）
会議を開催し、今後の改訂作業について方針を定めた。
- 8) バスキュラーアクセスガイドライン追補に関するワーキンググループ（深澤瑞也グループ長）
バスキュラーアクセスガイドライン追補に向けて、人工血管被覆ステント並びに薬剤塗布バルーンの2製品に関して、論文の抽出を行っている段階である。
- 9) 小委員会活動
- (1) 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会（友 雅司委員長）
- ① 日本透析医学会、日本透析医会、JACE（日本臨床工学技士会）との3団体共同「透析排液管理ワーキンググループ（峰島三千男グループ長）」：透析排水の適正管理について検討を行い、その成果に関する啓発活動を行った。
 - ② ISO・IEC 対策ワーキンググループ（川西秀樹グループ長）：日本の見解を反映させるべく ISO・IEC 会議に委員を派遣し、議論を行った。
 - ③ ヘモダイアフィルタの機能分類について第67回日本透析医学会学術集会・総会において、委員会企画「血液浄化器の機能評価として」を開催した。詳細は別添「血液透析濾過器の性能評価と使い分け」に記載する。
- (2) 血液浄化に関する新技術検討小委員会（山下明泰委員長）
複数の委員が今期で退任を予定しているため、研究の継続性を考慮しつつ新メンバーをリクルートするための議論を重ねた。委員会では今後もこれまでの路線で活動を行うことを確認した。
第66回日本透析医学会学術集会・総会に引き続き、第67回日本透析医学会学術集会・総会（令和4年6月）においても委員会で議論した成果を、委員会企画「血液浄化関連技術におけるSDGsの模索」で公表した。委員の交代を前提として、各演者がこれまでの成果をまとめて発表した。対面での出席者は多くはなかったが好評を得ることができた。
- (3) 医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会（阿部雅紀委員長）
- ① 体験参加型セッションの開催
 - ② 学会ガイドライン・指針・委員会報告の内容を基にしたわかりやすいセミナーの開催
上記計画したが、COVID-19の影響で開催には至らず。
- (4) コメディカルスタッフ研究助成基金運営委員会（脇野 修委員長）
令和5年度のコメディカルスタッフ研究助成基金の申請受付を行ったところ7件の申請があり、委員の審査により以下の2つの研究に助成することを決定した。
- 人見泰正（桃仁会病院・臨床工学技士）
「シャント音アルゴリズム解析を利用した「電子聴診 VSI 値 (vascular sound index)」が超音波検査（エコー）装置で測る血流量（FV；flow volume）などの治療介入基準となるかの検証」
- 岡留由祐（熊本赤十字病院・臨床工学技士）
「透析導入を回避し超高齢化社会を健やかに生きるための、高齢者に特化した心臓血管手術後急性腎障害発症リスク分析」

(5) 透析医学用語集作成小委員会（土谷 健委員長）

透析医学用語集が平成 19 年度のものであり、新しい用語・古くなった用語等もあるので、基本的に用語集を改訂する方針とし、実際の作業を開始する。関連学会として、「日本腎臓学会」「日本アフェレシス学会」及び「日本急性血液浄化学会」からの委員に参加を仰ぎ、「日本腹膜透析医学会」に可能なら委員の派遣を依頼する。日本腎臓学会用語委員会と連携して用語集の改定に向けて活動を計画したが、コロナ等で会合が開催されなかった。

5. 統計調査委員会

1) 2021 年 12 月 31 日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査と報告

- (1) 「わが国の慢性透析療法の現況 (2021 年 12 月 31 日現在)」を日本透析医学会雑誌 55 巻 12 号に掲載した。
- (2) CD-ROM 版「わが国の慢性透析療法の現況 (2021 年 12 月 31 日現在)」を調査協力非会員施設に送付した。(今回から施設会員には送付せず、学会ホームページ、WADDA システムをご参照いただく)
 - ① 上記現況報告の英文化・RRT 誌への投稿作業中である。
 - ② 上記現況報告の PDF ファイル、PPT ファイルを学会ホームページに掲載した。
 - ③ 2021 年調査結果を統計調査データベース、WADDA システム (自動集計、研究データ切出し) に取り込み、学会ホームページの会員専用ページで WADDA システム (自動集計) の 2021 年版を公開した。

2) 「わが国の慢性透析療法の現況 (2019 年 12 月 31 日現在)」を Annual Dialysis Data Report 2019, JSDT Renal Data Registry (JRDR) として、Renal Replacement Therapy (2021) 5:53, DOI/10.1186/s41100-019-0248-1 に投稿した。

3) 2022 年 12 月 31 日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査の実施

- (1) 新規調査項目として、災害対策、新型コロナワクチン接種について調査の実施を行った。
- (2) 2022 年の調査計画について倫理審査を依頼し、承認後 UMIN に公開した。
- (3) 全国の透析施設に対して 2022 年末わが国の慢性透析療法の現況調査を実施した。
- (4) 2023 年 4 月 1 日現在収集作業中であるが、ほぼ例年並みの回収状況である。

4) WADDA システム、学術研究用データ切出しシステムの改善

- (1) WADDA システム、学術研究用データ切出しシステムについて、より利用しやすいよう一部改善を行った。

5) 統計調査のデータベース作成の改善

- (1) 統計調査データベース作成の際の名寄せ処理精度を更に上げるため、システムを一部改善した。

6) 第 67 回日本透析医学会学術集会・総会において以下のセッションを開催・企画した。

- (1) 統計調査委員会企画「統計調査の将来を考える」
- (2) ワークショップ：臨床研究の新しいデザインと統計手法

7) 統計調査データにおける研究活動の推進・論文化

- (1) 学術委員会等他委員会と協力の上 JRDR データベースの解析、論文化を解析小委員会を中心に行った。
- (2) 2022 年は JRDR を用いた研究結果 英文 5 編、和文 2 編が掲載された。

8) 統計調査結果の英語版ホームページの充実

- (1) JRDR の調査結果を広く海外に発信するために、英語版ホームページの充実に努めた。

9) 国内・国際協力の推進

- (1) 米国腎臓データシステム (USRDS) に対して、データ提供を行った。
- (2) 国際腎臓学会 (ISN) 主導の途上国におけるレジストリ立ち上げプロジェクトである SharE-RR への参加を行い、Web 会議で意見を交換した。

統計解析小委員会

- (1) 学術委員会など学会内諸委員会と協同した各小委員会の解析計画をブラッシュアップし解析を進めた。

- (2) JRDR を用いた研究計画および他団体・他学会から申請のあった研究計画について審議した。

地域協力小委員会

- (1) 2022 年末調査回収のため、各地域において、未回収施設に対する電話や FAX による督促を行った。
- (2) 統計調査への理解を深めるため地域協力員に、統計調査委員会議事録のダイジェスト版を送付した。

6. 専門医制度委員会

1) 専門医制度委員会

- (1) 2021 年 12 月 9 日に日本内科学会 専門医制度審議会 内科系サブスペシャルティ領域審議会から、新規申請について連絡があった。これを踏まえて、第 67 回日本透析医学会学術集会・総会 委員会企画「日本専門医機構による透析専門医認定の現状と問題点」において、現状のルールからカテゴリー A（基本領域：総合内科専門医）として申請を継続していくことが確認された。本学会の専門医数のうち 74% を占める日本内科学会に内科サブスペシャルティ領域審査協議会への参加を、16% を占める日本泌尿器科学会に同意を得ている。2022 年 2 月 24 日内科専門医制度審議会との会議で、総合内科専門医以外の基本領域専門医は、内科専門医と同等な診療能力を有する研修が必要なことを提示され、内科サブスペシャルティ領域個別協議会（透析領域）を設置することで合意した。3 月 22 日に個別協議委員の推薦依頼があったが、本年度も日本専門医機構への「新規認定領域」「学会認定機構承認」としての推薦を見送るとの回答があった。

2022 年 6 月 28 日には、日本専門医機構から再び、サブスペ希望学会はサブスペシャルティ領域申請をするよう通達があった。8 月に申請を行い、2023 年 1 月 23 日にはレビューシートの提出（含む標ぼう科記載：血液浄化センター、人工透析部、人工透析科、血液浄化部などの数）を日本内科学会に対して行った。内科学会（基本領域）からの 2022 年度の回答では、「本学会専門医（歴史、制度、体制）を理解しているが、腎臓学会との協議すり合わせをしてください」とのことである。この時提出したレビューシートにおける、基本姿勢を以下に示す。

「新専門医制度は、専門以外を見ないという弊害を生んでいます。全身合併症を有する透析医療という総合的能力を横断的に身に付けて、内科・泌尿器科の垣根を越えた総合診療により、患者ともに長期間診療を行う専門医制度がむしろ必要と考えます。基本領域とサブスペ領域の専門研修カリキュラムとの調和に関しては、腎臓機能を失ったうえでの特殊な診療技能にて、補完研修ではなく独立した通常研修に該当します。」なお泌尿器科学会専門医は、本学会の専門医の 16% を占め、透析医療の現場を支える大きな力であるが、「内科専門医と同等な診療能力を有する研修が必要なこと」の達成は短期間では困難である。現状では機構認定ではないが、透析専門医は専門医を標ぼう広告できる（日本医学会通達）ことを専門医制度委員会内で確認をした。

- (2) 全国規模学術集会・地方学術集会の認定継続は、一度認定されると自動的に継続としていたが、適切な学術集会の運営がなされていることを確認することに変更した（2021 年度）。その認定継続について、毎年 8 月までに、前年度プログラム、収支報告書、議事録を提出し、審議の結果、継続不可と決定された場合には翌年の 4 月から取り消す「認定取り消し」についての記載を追加した。今回、2022 年 12 月の専門医制度委員会および理事会において、「日本腎・血液浄化 AI 学会」が全国規模学術集会として認定された（2023 年 4 月 1 日～）。

2) 研修プログラム小委員会

- (1) サブスペシャルティ領域の専門医制度の申請に当たり、日本内科学会や日本泌尿器科学会など多くの基本領域学会がプログラム制度を基本としていることから、カリキュラム制度の見直しの検討を開始した。

3) カリキュラム小委員会

- (1) 透析専門医としての「質」を継続維持していくため、本学会専門医・指導医の更新を目指す医師を対象

とする「セルフトレーニング問題」を導入しており、編集会議でブラッシュアップを行い、その問題を学会誌に掲載し、所定の正答率をクリアした専門医・指導医には一定の研修単位（5単位）を認定した。なお、専門医更新・指導医更新必須条件であるセルフトレーニング問題正答を認定期間5年の内1回以上正答として義務付けている。応募者に問題・解答用紙（マークシート）を送付し、受付期間は5月1日～5月31日迄（消印有効）で実施し問題・正解・解説は8号に掲載した。掲載後に、生じた疑義問題1問について、理事会に再度諮られ、承認を受け、訂正文が学会誌に掲載され、数人の繰り上げ正答率回答者を得た。

(2) 提出された e-ラーニング問題のブラッシュアップを実施した。

(3) 2022年度は、専門研修トレーニング問題解説集、および専門研修指導マニュアルの改訂年度であり、平和カリキュラム小委員会委員長により改定作業が始まった。12月8日付けで、大中小項目の目次修正が諮られた（VII：Mgであるが15）欠乏症の項目から16）電解質の項目へ移動し、EPSなど英字略号を目次から削除、和文で統一することとした）。

4) 専門医認定小委員会

(1) 症例要約のフォーマットを2021年から変更したので、2022年度申請者は変更前のフォーマット使用を認め、2023年度申請者からはすべて新フォーマットとした。

(2) 2020年度申請者の高得点症例要約から症例要約を選定し、申請者の同意を得てブラッシュアップをし、ホームページに掲載した。

(3) 専門医認定制度に係る諸問題検討ワーキンググループで地域偏在・施設偏在の解消に関する施策を検討し、地域医療への配慮として、地域偏在解消のための仕組み（研修を理由とした地域の医療資源の流出防止策など）、地域枠のある専攻医、専攻医の子育て、留学、などへの配慮、地域医療における医師偏在を悪化させない配慮などを話し合い、各委員から意見を募った。

5) 専門医試験小委員会

(1) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮して、感染対策を行ったうえで、専門医試験の試験日を2022年10月16日東京会場とした。大きな混乱なく開催されたが、口頭試験の試験官の募集：3人体制（1ブースにつき）が維持できない結果となった。今後も試験官が出張を禁じられる可能性もあり、受験機会均等の原則を厳守し、今後も試験官は口頭試問2名へ減員が決定された。しかし、その評価の妥当性について、専門医制度委員会で以下のように諮られた。

①今年度も総合判定は2021年度と同様に、症例要約30%、筆記70%で、口頭試問により減点した。

②従来の試験では3名の試験官であったが、来年度以降（2人態勢）の口頭試問の減点を、従来（3人態勢）に即して、1.5倍とする方針を確認し、理事会承認を得た。

(2) 専門医認定審査は、今までと同様に書類審査、客観式筆記試験（問題形式はAタイプ、X2タイプ）、口答試問試験の3者の総合的な判断で行い、可否を決定した。合格承認を得られた申請者は、専門医制度規則・施行細則を改正し、2022年4月1日～2023年3月を専門医として認定した。

(3) 優良な試験問題を正答率50～70%かつ識別指数0.2～0.4以上と定義し、過去の試験問題の一部をブラッシュアップするとともに新規に問題を作成し、すべてのプール問題の見直しを実施し、約800題を管理している。その問題の質に関しては、かねてから議論があったが、新しい試験問題作成要項（国家試験に準ずる）が作成され（矢内 充試験小委員会委員長）、小委員会で承認された。

(4) 専門医認定試験に、倫理・安全対策・感染対策・災害対策に関する問題を出題した。

(5) 不正防止のため、教育責任者への確認と入院症例要約のサンプリングを継続した。

6) 施設認定小委員会

(1) 日本専門医機構専門医制度にいつでも対処可能なように、専門研修基幹施設と専門研修連携施設の施設群の形成に努めた。この基準に則り、施設認定不可能であった1施設を、慎重な議論の末、承認しなかった。

7. 国際学術交流委員会

1) 第 67 回日本透析医学会学術集会・総会において国際学術交流委員会として下記の企画を実施した。

I. シンポジウム

国際学術交流委員会プログラム

Symposium 1. 世界における透析患者の COVID19 の現状とその対策

Chairs : 兵藤 透, 倉賀野隆裕

【GI-19-1】 Covid-19 Infection Status in Patients on Maintenance Hemodialysis at a Tertiary Hospital in Ho Chi Minh City, Viet Nam.

Bui Pham Van 1,2

1. Nguyen Tri Phuong University Hospital, Ho Chi Minh, Viet Nam

2. Pham Ngoc Thach University Medicine, Ho Chi Minh, Viet Nam

【GI-19-2】 The status of Dialysis patients in Lao People's Democratic Republic under COVID-19 disaster as of 2019 -2022.

Noot Sengthavisouk 1.

1. Nephrology Department, Mittaphab Hospital, Vientiane Capital, Laos

【GI-19-3】 The status of dialysis patients in Mongolia under COVID-19 disaster as of 2019-2022.

Saruultuvshin Adiya 1.

1. Kidney Center, The First Central Hospital, Ulaanbaatar, Mongolia

【GI-19-4】 The status of dialysis patients in Taiwan under COVID-19 disaster as of 2019-2022.

Chih-Wei Yang 1.

1. Chang Gung Memorial Hospital, Chang Gung University, Taoyuan. Taiwan

【GI-19-5】 Status of Dialysis Patients in Cambodia under COVID-19 pandemic : data from Calmette Hospital (2019-2021).

Rathvirak Niv 1.

1. CHEA SIM Hemodialysis Center, Calmette Hospital, Phnom Penh, Cambodia.

【GI-19-6】 The status of dialysis patients in Indonesia under COVID-19 disaster as of 2019-2022.

I Gde Raka Widiana 1.

1. Department of Internal Medicine Faculty of Medicine Udayana University, Denpasar, Indonesia/ Sanglah General Hospital Bali, Denpasar, Indonesia

Symposium 2. アジア諸国における透析医療経済の現状

Chairs : 山下明泰, 平和伸仁

【GI-20-1】 The present status of dialysis patients in Mongolia as of 2022 from the point of medical economic view.

Saruultuvshin Adiya 1.

1. Kidney Center, The First Central Hospita, Ulaanbaatar, Mongolia

【GI-20-2】 The present status of dialysis patients in Cambodia as of 2022 from the point of medical economic view.

Hy Chanseila 1.

1. Chea Sim Hemodialysis Center, Calmette Hospital, Phnom Penh, Cambodia / Cambodian Association of Nephrology, Phnom Penh, Cambodia

【GI-20-3】 The present status of dialysis patients in Indonesia as of 2022 from the point of medical economic view.

I Gde Raka Widiana. 1.

1. Department of Internal Medicine Faculty of Medicine Udayana University, Denpasar, Indonesia / Sanglah General Hospital Bali, Denpasar, Indonesia

【GI-20-4】 The present status of dialysis patients in Vietnam as of 2022 from the point of medical economic view.

Ngoc Bao Nguyen 1.

1. Outpatient Department, Bach Mai Hospital, Hanoi, Vietnam

【GI-20-5】 The present status of Dialysis patients in Lao People's Democratic Republic as of 2022 from the medical economic point of view.

Noot Sengthavisouk 1.

1. Nephrology Department, Mittaphab Hospital, Vientiane Capital, Laos

【GI-20-6】 The present status of dialysis patients in Japan as of 2022 from the point of medical economic view.

Toru Hyodo 1.

1. NGO Ubiquitous Blood Purification International, Yokohama, Japan

II. 一般講演 Free Communications

公募は行わなかった。

III. Farewell Reception

実施しなかった。

IV. Travel Grant 等

今回は招聘や海外からの講演を行っていないため、Travel Grant 等の支出はなかった。

2) 国際交流派遣事業

海外関連学会への交流委員派遣は今年も見送る予定である。

3) その他

国内外で開催される、関連国際学会への各委員が独自に参加する。

8. 評議員選出委員会

評議員の任期は2年であるため、2022年度は選出を行わなかった。

9. 保険委員会

2024年度診療報酬改定に向けて諸準備を行った。

1) 第67回日本透析医学会学術集会・総会において、保険委員会企画【令和4年度診療報酬改定と明日への希望】として、竜崎崇和前委員長と深澤瑞也委員長の座長で下記演題の発表を行い討議した。

(1) 令和4年度診療報酬改定全般 太田圭洋先生

(2) 透析領域の診療報酬改定 竜崎崇和先生

(3) 今後の改定を目指し、いかに邁進するか 田倉智之先生

(4) 内科系学会社会保険連合における取組 川西秀樹先生

(5) 外科系学会社会保険委員会連合における取組み 深澤瑞也委員長

(6) 診療報酬改定～クリニックの収益に与える影響～ 西山 強先生

(7) 令和4年診療報酬改定への活動と総括 中元秀友先生

2) 内保連に対する活動

- (1) 新興・再興感染症に対する外来トリアージ加算：COVID-19の診療報酬への重点がなくなり今後新興・再興感染症が生じた際に透析施設における外来透析の継続性を担保するために新規に申請した。
- (2) 「血清セレン濃度測定」の測定制限の緩和：臨床栄養学会と共同申請することとした。
- (3) 在宅血液透析患者における遠隔管理加算：現在PDには認められているものの同じ在宅透析としてHHDは認められておらず申請する。

3) 外保連に対する活動

- (1) 透析用カテーテル挿入手技の注射コードから手術コードへの変更：再提出。
- (2) 透析患者に対する心外膜を用いた弁置換術の外保連試案取載に関する依頼：患者会からの要望もあり心臓血管外科手術であるものの当会から新規取載を依頼した。最終的には胸部外科学会の反対もあり外保連においては多数決の原則から取載見送りとなった。

4) 厚労省への陳情

患者会から当会並びに日本腎代替療法医療専門職推進協会に、心外膜を用いた弁置換術の透析患者に対する新技術の保険取載に対する要望を受け、当会武本理事長並びに日本腎代替療法医療専門職推進協会の中元理事長、秋野参議院議員とともに厚生労働省の伊佐進一副大臣に対して要望書を提出した。

10. 倫理委員会

1) 倫理委員会の開催

- (1) 「新型コロナウイルス感染症ワクチンの接種により得られる抗体価の経時的変化」臨床研究の実施（研究計画書の追加・修正）について審議し承認した。
- (2) 統計調査臨床研究倫理審査について審議し承認した。
- (3) 「新型コロナウイルス感染症ワクチンの接種により得られる抗体価の経時的変化」臨床研究の実施（研究計画書の修正）について審議し承認した。
- (4) 検討小委員会が審査を経て承認し報告のあった研究倫理審査4件について、承認し理事長に答申し申請者に通知した。

2) 研究倫理に関する検討小委員会の開催

研究倫理審査の申請のあった4件の予備審査および検討小委員会の審査を経て承認し倫理審査委員会に報告した。

3) 個人情報管理

個人情報（評議員、正会員氏名、所属、施設会員名簿）の提供依頼があり

- (1) 個人情報管理者の承認を得るもの（規則第4条関係）
6件申請があり、6件を承認した。
- (2) 個人情報管理者、理事長、常任理事の合意で決定し、理事会の承認を得るもの（規則第8条関係）
個人情報の事項照会に対する個人情報の提供に関し、本学会の「個人情報照会に関する取扱い指針第1条（3）官公庁からの公文書による、法的根拠を示した照会」に則り、個人情報の提供に関し、個人情報管理者、理事長、常任理事の合意で決定し、理事会において審議し、全会一致で承認され、個人情報を提供した。

11. 腎不全総合対策委員会

当委員会では、腎代替療法へのスムーズな移行や、透析・移植患者のQOLの改善を目標に、毎年のテーマを決めて検討を行ってきた。2022年度は、前年より解析に取り掛かっているQOLに関する検討を進め、論文化し

た。2番目の検討課題として保存期から透析期への移行する時期の管理が、患者指導並びにアクセスの作成も含めてどのようになっているか、さらに、腎代替療法を選択しない場合の保存的腎臓療法の実態を明らかにするために準備していた調査を実施した。

1) 透析患者 QOL に関する包括的検討

透析患者が苦痛に感じて QOL を阻害する要因について、深川前委員長を中心に 2021 年に実施したアンケートの結果をまとめて、第 67 回日本透析医学会学術大会の学会・委員会企画 5「SDGs を踏まえた腎不全患者の QOL を再定義する」と題して報告した。座長は中山昌明（聖路加国際病院）、深川雅史（東海大学）で、演者は 1) CKD 患者における新たな PRO：柴垣有吾（聖マリアンナ医科大学）、2) 透析患者の疲労における心理的要因～病期認知とアレキシサイミア～：種本陽子（聖路加国際病院心療内科）、3) 持続性のある運動リハビリ処方：稲熊大城（藤田医科大学ばんだね病院）、4) 透析導入を挟んだ腎不全患者の社会復帰・就業：酒井 謙（東邦大学医療センター大森病院）、5) 食生活の改善・カリウム制限をめぐる課題：加藤明彦（浜松医科大学医学部附属病院）、6) ポリファーマシーをめぐる課題：小松康宏（群馬大学大学院医学系研究科）の各先生に講演いただいた。

アンケートの結果は中山昌明を中心に論文にまとめ、腎不全総合対策委員会報告として、論文名「透析患者の QoL 向上のための重要アウトカムを巡る患者と医師の意識調査」、著者は中山昌明（聖路加国際病院）、宮澤優介（順天堂大学）、深川雅史（東海大学）の 3 名で作成され、理事会の承認を経て透析会誌 55 巻 11 号に掲載された。

2) 腎代替療法へのスムーズな移行に関する検討

腎代替療法へのスムーズな移行に必要なバスキュラーアクセスの準備に関して、1) アクセス作成の時期ならびに作製者（診療科など）、2) アクセスの種類（腹腔カテーテル含む）、3) 導入期のアクセス使用状況、4) 腎代替療法教育の有無によるアクセス作製状況、などを調査する目的で稲熊大城（藤田医科大学ばんだね病院）を中心に全国にアンケート調査を実施した。

12. 危機管理委員会

1) 危機管理委員会

透析医療における安全管理、災害と透析医療をテーマとした学術活動を行うとともに、災害時には関連団体と緊密に連携し対策を行った。

2) 災害対策小委員会（山川智之委員長）

(1) 第 67 回日本透析医学会学術集会・総会（2022 年 6 月 30 日～7 月 2 日、パシフィコ横浜）において、災害に関する危機管理委員会企画を行った。

テーマ：「透析災害対策の課題と先進事例」

司会：鶴屋和彦，山川智之

① 山川智之（仁真会白鷺病院）透析災害対策の現状と課題

② 森野一真（山形県立中央病院）災害対策の人材育成

③ 渡邊 潤（浜松医科大学）栄養士の連携による災害対応～日本栄養士会災害支援チームの活動について

④ 水政 透（九州中央病院）福岡県透析医会における災害に対する BCP（Business continuity plan）

⑤ 宮本照彦（中央内科クリニック）透析医療に必要な災害対策マニュアルの作成支援を目指した日本血液浄化技術学会の活動

⑥ 森上辰哉（元町 HD クリニック）兵庫県における災害時透析医療リエゾンの活動報告

(2) 第 68 回日本透析医学会学術集会・総会（2023 年 6 月 16 日～18 日、神戸コンベンションセンター）において、厚生労働科学研究「慢性腎臓病患者に特有の健康課題に適合した災害診療体制の確保に資する研究」をテーマとした災害に関する委員会企画を計画した。

(3) 第 66 回日本透析医学会学術集会・総会（2021 年）の委員会企画の内容を透析会誌で報告した。

山川智之，菊地 勘，大石和久，西村典史，浦田浩史，赤塚東司雄，鶴屋和彦：危機管理委員会企画

With コロナ時代の災害対策. 透析会誌 2022 ; 55(7) : 425-30.

3) 医療安全対策小委員会 (満生浩司委員長)

- (1) 医療事故調査報告制度に協力関体として登録しているが、医療事故調査・支援センターからの依頼で調査委員を派遣して、事故事例のセンター調査を担当している。本年度は1件の依頼があり、近畿ブロックから個別調査部会の部会長1名、部会員1名を派遣した。
- (2) 医療事故調査委員を各都道府県に配置し、必要に応じて委員の更新を行った。
- (3) 第67回日本透析医学会学術集会・総会(2022年6月30日～2日, パシフィコ横浜)において、医療安全に関する危機管理委員会企画を行った。

テーマ:「透析療法における医療安全～長期留置カテーテルへの対応を考える」

司会: 鶴屋和彦, 満生浩司

- ① 宮田 昭 (社団広崎会さくら病院) カフ型カテーテル埋植手術手技
 - ② 河合瑠美 (順天堂大学看護部) カフ型カテーテルの管理
 - ③ 笹川 成 (横浜第一病院) カフ型カテーテル閉塞の問題
 - ④ 長沼俊秀 (大阪公立大学) カフ型カテーテル感染, 菌血症の問題
 - ⑤ 宮崎真理子 (東北大学) 長期留置カテーテルの挿入・使用における医療安全上の課題
 - ⑥ 山口 (中上) 悦子 (大阪公立大学) カテーテル関連の事故と安全～社会科学の観点から～
- (4) 第68回日本透析医学会学術集会・総会(2023年6月16日～18日, 神戸コンベンションセンター)において、「透析医療事故と医療安全に関する調査報告」をテーマとした災害に関する委員会企画を計画した。

13. 研究者の利益相反等検討委員会

- 1) 「日本医学会 COI 管理ガイドライン (一部改定 2022 年版)」について、日本透析医学会でも主な改正点について議論した (1) ～ (3)。理事会の承認を経て総会で報告し、これを周知した。
 - (1) 日本透析医学会の利益相反 (COI) 申告様式 (様式 2 : 日本透析医学会雑誌) の改正について
 - (2) 日本透析医学会「医学研究の利益相反に関する指針」に関する取扱い細則の一部改正 (案) について
 - (3) 日本透析医学会の利益相反 (COI) 申告様式 (様式 1, 様式 3 ～ 4) の一部改正 (案) について
- 2) 日本医学会 産学連携健全化ワーキンググループによる、企業主催講演会における学術講演会内容介入状況のアンケート調査報告書 2023 の問題点と課題に対して、当委員会において周知および議論を行った。当委員会でもアンケート調査を行うことを、一定の見解をまとめて理事会に答申した。

14. 男女共同参画推進委員会

1) 男女共同参画推進委員会

日本透析医学会ホームページの男女共同参画推進委員会の項の拡充を継続していくこととなった。

2) 小委員会の活動

(1) 多職種の男女共同参画に関する小委員会

日本臨床工学士会, 日本腎臓病薬物療法学会, 日本腎不全看護学会, 日本病態栄養学会とそれぞれ共同し、働き方改革について各学会の現状と施策を検討することとしているが継続して検討することとなった。

(2) 女性医師育成小委員会

① 第67回日本透析医学会学術集会・総会において、以下の研究報告が行われた。

・第5回 TSUBASA PROJECT

社会医療法人かりゆし会ハートライフ病院腎臓内科: 普久原智里先生

東京慈恵会医科大学附属病院腎臓・高血圧内科: 土谷千子先生

東京女子医科大学血液浄化療法科：塚田三佐緒先生

北海道大学病院リウマチ・腎臓内科：西尾妙織先生

・第6回 TSUBASA PROJECT

琉球大学大学院医学研究科循環器・腎臓・神経内科学：大城菜々子先生

(医) 社団永生会南多摩病院内科：笠木祐里先生

(医) あかね会中島土谷クリニック透析センター：真島菜々子先生

② 2022年度に「透析医療に従事する医師の働き方に関する実態調査」をアンケート調査する予定であったが、COVID-19等の理由により実施できなかった。そのため、2023年度にアンケート調査を行う予定である。

③ 第7回 TSUBASA PROJECT として、以下の4名を研究者として選出し研究を進めており、第68回日本透析医学会学術集会・総会において研究報告を行う予定である。

・友愛医療センター腎臓内科：江田はるか先生

「維持透析患者におけるADPKD透析患者の性差」

・東京慈恵会医科大学腎臓・高血圧内科：小林亜理沙先生

「血液透析患者における性差が骨代謝や骨折発症リスクに与える影響についての検討」

・聖路加国際病院：門多のぞみ先生

「維持血液透析患者における予定外集中治療室入室に関する性差の検討」

・東邦大学医学部腎臓学講座：前田真保先生

「腎移植後の妊娠・出産を起点とした母体および児の長期予後についての研究」

15. 感染対策委員会

1) 感染対策委員会

(1) 第67回日本透析医学会学術集会・総会において、感染対策委員会企画として、「透析患者におけるCOVID-19～2年半を振り返って～」を行った。

(2) 当委員会研究である「透析患者における新型コロナウイルスワクチン接種による液性免疫および細胞性免疫の変化に関する研究」を行い、2023年にこの研究結果を論文報告した。

Yoshifuji A, Toda M, Ryuzaki M, Oyama E, Kikuchi K, Kawai T, Sakai K, Koinuma M, Katayama K, Yokoyama T, Uehara Y, Ohmagari N, Kanno Y, Kon H, Shinoda T, Takano Y, Tanaka J, Hora K, Nakazawa Y, Hasegawa N, Hanafusa N, Hinoshita F, Morikane K, Wakino S, Nakamoto H, Takemoto Y. T-Cell Response and Antibody Production Induced by the COVID-19 Booster Vaccine in Japanese Chronic Kidney Disease Patients Treated with Hemodialysis. *Vaccines* 2023; 11 (3) : 653. doi : 10.3390/vaccines11030653.

2) 新型コロナウイルス感染対策合同委員会

(1) 2020年から活動している、本学会と日本透析医会および日本腎臓学会による新型コロナウイルス感染対策合同委員会の活動を継続し、透析患者における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の患者数、ワクチン接種や治療の状況、および重症度や致死率を把握して、会員に向けて定期的にホームページに掲載した。

(2) 2022年1月11日に、オミクロン株による急激な患者数増加の可能性および対策について、「新型コロナウイルス患者数増加にともなう透析施設における対応と透析患者の透析医療の確保について」を策定して、会員施設に啓発した。

(3) 2022年2月10日に、オミクロン株による急激な患者数増加に対して、入院病床の確保や軽症者の外来透析、ワクチン接種の励行および感染患者への抗ウイルス薬投与の推奨を記載した、「オミクロン株の感

染拡大を踏まえた透析患者に対する適切な医療提供体制の確保について（お願い）」を策定して、会員施設に啓発した。

- (4) 2022年9月16日の厚生労働省からの事務連絡、「新型コロナウイルス感染症の患者に対する療養期間等の見直しにおける透析患者への対応について」、このQAの作成に協力および連携して周知を行った。
- (5) 2023年2月20日に、「2023年3月13日以降の透析施設におけるマスク着用の考え方について」を策定して、会員施設に啓発した。
- (6) 2023年3月13日に、2023年5月8日からCOVID-19の感染症法上の位置づけが5類に変更となることに伴い、厚生労働省へ「新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけ変更に際しての要望書」を提出し、以下を要望した。
 - ・新型コロナウイルス感染症に関する診療報酬上の特例について必要な感染対策への評価を当面継続すること
 - ・抗ウイルス薬の公費負担を当面継続すること
 - ・軽症の感染透析患者の通院手段の確保を当面継続すること
 - ・中等症以上の感染透析患者の入院施設の確保及び入院調整機能の維持を当面継続すること
- (7) 新型コロナウイルス感染対策合同委員会のデータに基づき、実臨床での透析患者におけるワクチン接種の効果についての論文報告を行った。

Kikuchi K, Nangaku M, Ryuzaki M, Yamakawa T, Yoshihiro O, Hanafusa N, Sakai K, Kanno Y, Ando R, Shinoda T, Wakino S, Nakamoto H, Takemoto Y, Akizawa T ; COVID-19 Task Force Committee of the Japanese Association of Dialysis Physicians, the Japanese Society for Dialysis Therapy, and the Japanese Society of Nephrology. Effectiveness of SARS-CoV-2 vaccines on hemodialysis patients in Japan : A nationwide cohort study. Ther Apher Dial 2023 ; 27 (1) : 19-23. doi : 10.1111/1744-9987.13887.

- 3) 透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン改訂に向けたワーキンググループ
2022年11月11日より、日本透析医会の発行する「透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン（五改訂）」の改訂ワーキンググループが発足した。当学会と日本透析医会、日本腎臓学会、日本環境感染学会、日本臨床工学技士会、日本腎不全看護学会の6団体での協力で改訂作業が行われており、2024年12月に策定される予定である。この「透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン改訂に向けたワーキンググループ」には、菊地 勘、竜崎崇和、吉藤 歩の3名が当学会からの推薦委員として参加、菊地 勘がワーキンググループの委員長を務めている。

Ⅱ. 処務の概要

① 役員等に関する事項

(1) 理事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
理事長	武本佳昭	令和4年6月30日～ 選任後2年以内に終了する事業年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	一般社団法人 大阪透析研究会 理事長
常任理事	阿部雅紀	同	非常勤	なし	
同	猪阪善隆	同	非常勤	なし	
同	酒井謙	同	非常勤	なし	
理事	小川哲也	同	非常勤	なし	
同	小川智也	同	非常勤	なし	
同	菅野義彦	同	非常勤	なし	一般社団法人 日本臨床栄養学会 理事長
同	菊地勘	同	非常勤	なし	
同	倉賀野隆裕	同	非常勤	なし	
同	小岩文彦	同	非常勤	なし	
同	高橋直子	同	非常勤	なし	
同	鶴屋和彦	同	非常勤	なし	
同	友雅司	同	非常勤	なし	
同	花房規男	同	非常勤	なし	特定非営利活動法人 日本腎・ 血液浄化 AI学会 代表理事
同	平和伸仁	同	非常勤	なし	
同	廣谷紗千子	同	非常勤	なし	
同	深澤瑞也	同	非常勤	なし	
同	前野七門	同	非常勤	なし	
同	正木崇生	同	非常勤	なし	
同	宮崎真理子	同	非常勤	なし	
同	米田龍生	同	非常勤	なし	
同	脇野修	同	非常勤	なし	

(2) 監事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
監事	内田潤次	令和4年6月30日～ 選任後2年以内に終了する事業年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	
同	齋藤満	同	非常勤	なし	
同	鷺田直輝	同	非常勤	なし	

(3) 評議員

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
1	評議員	浅井利大	令和4年6月30日～ 選任後2年以内に終了する事業 年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	
2	同	朝田啓明	同	非常勤	なし	
3	同	浅沼克彦	同	非常勤	なし	
4	同	東治人	同	非常勤	なし	
5	同	安達政隆	同	非常勤	なし	
6	同	阿部雅紀	同	非常勤	なし	
7	同	雨宮守正	同	非常勤	なし	
8	同	荒木信一	同	非常勤	なし	
9	同	荒木英雄	同	非常勤	なし	
10	同	安藤孝	同	非常勤	なし	
11	同	安藤忠助	同	非常勤	なし	
12	同	家原典之	同	非常勤	なし	
13	同	井尾浩章	同	非常勤	なし	
14	同	池田直史	同	非常勤	なし	
15	同	池田雅人	同	非常勤	なし	
16	同	猪阪善隆	同	非常勤	なし	
17	同	石井大輔	同	非常勤	なし	
18	同	石田英樹	同	非常勤	なし	
19	同	石橋由孝	同	非常勤	なし	
20	同	和泉雅章	同	非常勤	なし	
21	同	磯野元秀	同	非常勤	なし	
22	同	井手健太郎	同	非常勤	なし	
23	同	伊藤孝史	同	非常勤	なし	
24	同	稲熊大城	同	非常勤	なし	
25	同	今田崇裕	同	非常勤	なし	
26	同	今田直樹	同	非常勤	なし	
27	同	岩谷博次	同	非常勤	なし	
28	同	植木嘉衛	同	非常勤	なし	
29	同	植田敦志	同	非常勤	なし	
30	同	内田潤次	同	非常勤	なし	
31	同	海老原至	同	非常勤	なし	
32	同	絵本正憲	同	非常勤	なし	
33	同	大島直紀	同	非常勤	なし	
34	同	大田和道	同	非常勤	なし	
35	同	大田聡	同	非常勤	なし	
36	同	大坪茂	同	非常勤	なし	
37	同	大橋靖	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
38	同	大前清嗣	同	非常勤	なし	
39	同	大森聡	同	非常勤	なし	
40	同	大家基嗣	同	非常勤	なし	
41	同	岡田浩一	同	非常勤	なし	
42	同	小川千恵	同	非常勤	なし	
43	同	小川哲也	同	非常勤	なし	
44	同	小川智也	同	非常勤	なし	
45	同	角田隆俊	同	非常勤	なし	
46	同	柏木哲也	同	非常勤	なし	
47	同	春日弘毅	同	非常勤	なし	
48	同	片山鑑	同	非常勤	なし	
49	同	加藤明彦	同	非常勤	なし	
50	同	金井英俊	同	非常勤	なし	
51	同	金田幸司	同	非常勤	なし	
52	同	上條祐司	同	非常勤	なし	
53	同	亀井大悟	同	非常勤	なし	
54	同	川合徹	同	非常勤	なし	
55	同	川口祐輝	同	非常勤	なし	
56	同	神田英一郎	同	非常勤	なし	
57	同	菅野義彦	同	非常勤	なし	
58	同	菊地勘	同	非常勤	なし	
59	同	菊池正雄	同	非常勤	なし	
60	同	北村健一郎	同	非常勤	なし	
61	同	木村朋由	同	非常勤	なし	
62	同	熊田憲彦	同	非常勤	なし	
63	同	倉賀野隆裕	同	非常勤	なし	
64	同	小出滋久	同	非常勤	なし	
65	同	小岩文彦	同	非常勤	なし	
66	同	合田朋仁	同	非常勤	なし	
67	同	河野圭志	同	非常勤	なし	
68	同	小久保謙一	同	非常勤	なし	
69	同	後藤順一	同	非常勤	なし	
70	同	後藤俊介	同	非常勤	なし	
71	同	古波蔵健太郎	同	非常勤	なし	
72	同	小向大輔	同	非常勤	なし	
73	同	米田雅美	同	非常勤	なし	
74	同	今裕史	同	非常勤	なし	
75	同	齋藤修	同	非常勤	なし	
76	同	齋藤知栄	同	非常勤	なし	
77	同	齋藤満	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
78	同	酒井 謙	同	非常勤	なし	
79	同	酒井 行直	同	非常勤	なし	
80	同	櫻田 勉	同	非常勤	なし	
81	同	佐々木 環	同	非常勤	なし	
82	同	佐藤 武司	同	非常勤	なし	
83	同	佐藤 元美	同	非常勤	なし	
84	同	里中 弘志	同	非常勤	なし	
85	同	柴原 宏	同	非常勤	なし	
86	同	島田 久基	同	非常勤	なし	
87	同	島野 泰暢	同	非常勤	なし	
88	同	常喜 信彦	同	非常勤	なし	
89	同	庄司 哲雄	同	非常勤	なし	
90	同	新宅 究典	同	非常勤	なし	
91	同	杉浦 寿央	同	非常勤	なし	
92	同	杉山 齐	同	非常勤	なし	
93	同	鈴木 朗	同	非常勤	なし	
94	同	鈴木 一裕	同	非常勤	なし	
95	同	鈴木 利彦	同	非常勤	なし	
96	同	須田 伸	同	非常勤	なし	
97	同	副島 一晃	同	非常勤	なし	
98	同	祖父江 理	同	非常勤	なし	
99	同	高田 知朗	同	非常勤	なし	
100	同	高橋 直子	同	非常勤	なし	
101	同	滝沢 英毅	同	非常勤	なし	
102	同	滝本 千恵	同	非常勤	なし	
103	同	竹岡 浩也	同	非常勤	なし	
104	同	竹田 徹朗	同	非常勤	なし	
105	同	武本 佳昭	同	非常勤	なし	
106	同	田代 学	同	非常勤	なし	
107	同	田中 賢治	同	非常勤	なし	
108	同	田中 哲洋	同	非常勤	なし	
109	同	田中 啓之	同	非常勤	なし	
110	同	谷口 正智	同	非常勤	なし	
111	同	谷山 佳弘	同	非常勤	なし	
112	同	玉垣 圭一	同	非常勤	なし	
113	同	田村 功一	同	非常勤	なし	
114	同	丹野 有道	同	非常勤	なし	
115	同	塚田 三佐緒	同	非常勤	なし	
116	同	辻本 吉広	同	非常勤	なし	
117	同	鶴屋 和彦	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
118	同	寺田典生	同	非常勤	なし	
119	同	土井研人	同	非常勤	なし	
120	同	土井盛博	同	非常勤	なし	
121	同	徳本正憲	同	非常勤	なし	
122	同	徳山博文	同	非常勤	なし	
123	同	友雅司	同	非常勤	なし	
124	同	友利浩司	同	非常勤	なし	
125	同	内藤省太郎	同	非常勤	なし	
126	同	仲川嘉紀	同	非常勤	なし	
127	同	中倉兵庫	同	非常勤	なし	
128	同	中田純一郎	同	非常勤	なし	
129	同	長田太助	同	非常勤	なし	
130	同	長門谷克之	同	非常勤	なし	
131	同	長沼俊秀	同	非常勤	なし	
132	同	中野敏昭	同	非常勤	なし	
133	同	中ノ内恒如	同	非常勤	なし	
134	同	中村典雄	同	非常勤	なし	
135	同	中村道郎	同	非常勤	なし	
136	同	中山晋二	同	非常勤	なし	
137	同	鍋島邦浩	同	非常勤	なし	
138	同	成瀬友彦	同	非常勤	なし	
139	同	西尾妙織	同	非常勤	なし	
140	同	錦戸雅春	同	非常勤	なし	
141	同	西澤欣子	同	非常勤	なし	
142	同	西田隼人	同	非常勤	なし	
143	同	西野友哉	同	非常勤	なし	
144	同	二瓶大	同	非常勤	なし	
145	同	野口智永	同	非常勤	なし	
146	同	橋本幸始	同	非常勤	なし	
147	同	長谷川毅	同	非常勤	なし	
148	同	長谷川元	同	非常勤	なし	
149	同	花房規男	同	非常勤	なし	
150	同	浜崎敬文	同	非常勤	なし	
151	同	早川和良	同	非常勤	なし	
152	同	林晃正	同	非常勤	なし	
153	同	原澤信介	同	非常勤	なし	
154	同	原田浩	同	非常勤	なし	
155	同	播本幸司	同	非常勤	なし	
156	同	春口洋昭	同	非常勤	なし	
157	同	樋口輝美	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
158	同	平間章郎	同	非常勤	なし	
159	同	平山浩一	同	非常勤	なし	
160	同	平和伸仁	同	非常勤	なし	
161	同	廣谷紗千子	同	非常勤	なし	
162	同	深澤瑞也	同	非常勤	なし	
163	同	古市賢吾	同	非常勤	なし	
164	同	本田浩一	同	非常勤	なし	
165	同	前野七門	同	非常勤	なし	
166	同	政金生人	同	非常勤	なし	
167	同	正木崇生	同	非常勤	なし	
168	同	升谷耕介	同	非常勤	なし	
169	同	松尾七重	同	非常勤	なし	
170	同	松岡哲平	同	非常勤	なし	
171	同	松下和通	同	非常勤	なし	
172	同	松田洋人	同	非常勤	なし	
173	同	松原雄	同	非常勤	なし	
174	同	丸山高史	同	非常勤	なし	
175	同	丸山範晃	同	非常勤	なし	
176	同	丸山之雄	同	非常勤	なし	
177	同	三浦健一郎	同	非常勤	なし	
178	同	水崎浩輔	同	非常勤	なし	
179	同	水野正司	同	非常勤	なし	
180	同	三瀬直文	同	非常勤	なし	
181	同	溝渕正英	同	非常勤	なし	
182	同	満生浩司	同	非常勤	なし	
183	同	水口齐	同	非常勤	なし	
184	同	宮崎真理子	同	非常勤	なし	
185	同	宮園素明	同	非常勤	なし	
186	同	宮本哲	同	非常勤	なし	
187	同	村上円人	同	非常勤	なし	
188	同	森克仁	同	非常勤	なし	
189	同	森建文	同	非常勤	なし	
190	同	森下義幸	同	非常勤	なし	
191	同	森本耕吉	同	非常勤	なし	
192	同	森山能仁	同	非常勤	なし	
193	同	矢島愛治	同	非常勤	なし	
194	同	安田日出夫	同	非常勤	なし	
195	同	矢内充	同	非常勤	なし	
196	同	柳田太平	同	非常勤	なし	
197	同	山縣邦弘	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
198	同	山 川 智 之	同	非常勤	なし	
199	同	山 岸 敬	同	非常勤	なし	
200	同	山 口 邦 久	同	非常勤	なし	
201	同	山 下 芳 久	同	非常勤	なし	
202	同	山 田 剛 久	同	非常勤	なし	
203	同	山 中 正 人	同	非常勤	なし	
204	同	山 本 泉	同	非常勤	なし	
205	同	山 本 卓	同	非常勤	なし	
206	同	横 地 章 生	同	非常勤	なし	
207	同	吉 田 理	同	非常勤	なし	
208	同	吉 田 英 昭	同	非常勤	なし	
209	同	吉 武 理	同	非常勤	なし	
210	同	吉 嶺 陽 仁	同	非常勤	なし	
211	同	米 田 龍 生	同	非常勤	なし	
212	同	頼 建 光	同	非常勤	なし	
213	同	若 井 陽 希	同	非常勤	なし	
214	同	若 杉 三 奈 子	同	非常勤	なし	
215	同	脇 野 修	同	非常勤	なし	
216	同	涌 井 広 道	同	非常勤	なし	
217	同	鷺 田 直 輝	同	非常勤	なし	
218	同	和 田 篤 志	同	非常勤	なし	
219	同	和 田 隆 志	同	非常勤	なし	
220	同	和 田 健 彦	同	非常勤	なし	

(4) 退任した役員等
該当なし

(5) 役員等の報酬等

区 分	人 数	報酬等の総額	備 考
理 事	22名	なし	
監 事	3名	なし	
評 議 員	220名	なし	
合 計	245名		

② 会員に関する事項

会員種別	員 数		増 減 数	摘 要
	今年度末	前年度末		
	2023年3月31日現在	2022年3月31日現在		
正 会 員	14,095	14,049	46	
施設会員	4,168	4,151	17	
賛助会員	60	62	-2	
名誉会員	49	49	0	
計	18,372	18,311	61	

③ 職員に関する事項

令和4年度末現在

職 名	常勤・非常勤	氏 名	採用年月日	担当事務	備 考
事務局長	常 勤	坂 入 幸 雄	平成30年4月1日	総括管理	

④ 役員会等に関する事項

(1) 理事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和4年5月27日 第1回理事会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入会・退会に関する件 2. 日本透析医学会定款第13条第1項, 第2項に基づく役員を選任に関する件 3. 日本透析医学会定款施行細則第10条第2項に基づく推薦幹事候補者の推薦に関する件 4. 委員会委員の選任に関する件 5. 委員会委員の交代及び追加に関する件 6. 令和4年度日本透析医学会賞(木本賞)・奨励賞の選考に関する件 7. 令和3年度事業報告(案)に関する件 8. 令和3年度貸借対照表及び正味財産増減計算書等に関する件 9. 令和4年度監事による監査報告に関する件 10. 規則等の一部改正に関する件 11. 第67回通常総会開催及び臨時総会開催に関する件 12. 第67回学術集会・総会開催時の各賞表彰式次第(案)に関する件 13. 危機管理委員会報告「Withコロナ時代の災害対策」 14. 総務委員会 発展途上国の透析スタッフ育成プログラム小委員会のスタッフ育成の実施に関する件 15. 第31回日本医学会総会奨励賞 候補者推薦に関する件 16. 線維素溶解酵素剤 ウロナーゼ静注用6万単位供給に関する件 17. 第67回(令和4年)学術集会・総会に関する件 18. 第68回(令和5年)学術集会・総会に関する件 19. 第69回(令和6年)学術集会・総会に関する件 	<p>全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認</p> <p>全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認</p>

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和 4 年 6 月 30 日 第 2 回理事会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入会・退会に関する件 2. 日本透析医学会新役員選挙要項第 4 項 選挙立会人候補者 2 名（本学会正会員）の指名に関する件 3. 第 67 回通常総会の進行に関する件 4. 日本透析医学会からの委員会（部会）委員の推薦依頼に関する件 5. 規則の一部改正に関する件 6. VA 血管内治療認定医募集に関する件 7. 統計調査データを用いた研究に関する件 8. 第 6 回 TSUBASA PROJECT の研究期間延長に関する件 9. 日本透析医学会 研究推進事業（学会主導型）、（公募型）に関する件 10. 第 68 回（令和 5 年）学術集会・総会に関する件 11. 第 69 回（令和 6 年）学術集会・総会に関する件 12. APCN2024 開催にあたっての KSN からの支援依頼に関する件 	<p>全会一致で承認 全会一致で承認</p> <p>全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認</p>
令和 4 年 6 月 30 日 第 3 回理事会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理事長（代表理事）選定の件 2. 常任理事の選定の件 3. 常置委員会委員長・小委員会委員長及び委員の委嘱に関する件 4. 対外委員に関する件 	<p>全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認</p>
令和 4 年 8 月 5 日 第 4 回理事会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入会・退会に関する件 2. 常置委員会 委員長，小委員会委員長等および委員に関する件 3. 対外委員に関する件 4. 2022 年度セルフトレーニング問題採点結果に関する件 5. 日本腎臓学会・日本透析医学会合同委員会に関する件 6. 統計調査システム等の取り扱いに関する規程に関する届け出（第 6 章関係）に関する件 7. 捜査関係事項照会書（福岡県糸島警察署関係）に対する個人情報の提供に関する件 8. 田辺三菱製薬医学研究助成（公募開始）に関する件 9. ウロナーゼ静注用万単位及びウロナーゼ冠動注用 12 万単位の供給に関する件 10. 透析バスキュラーアクセスインターベンション治療医学会 VAIVT 認定専門医の認定事業開始について 11. 第 67 回（令和 4 年）学術集会・総会に関する件 12. 第 68 回（令和 5 年）学術集会・総会に関する件 13. 第 69 回（令和 6 年）学術集会・総会に関する件 14. 第 70 回（令和 7 年）学術集会・総会に関する件 	<p>全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認</p>
令和 4 年 12 月 9 日 第 5 回理事会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入退会に関する件 2. 幹事の推薦に関する件 3. 第 68 回学術集会・総会の予算（案）に関する件 4. 第 69 回学術集会・総会の予算（案）に関する件 5. 第 70 回学術集会・総会の予算（案）に関する件 6. 第 71 回（2026 年）次次次期会長選出に関する件 7. 2023 年度事業計画，概算要求及び 2022 年度事業報告の作成に関する件 8. 2022 年度当初予算の誤謬訂正に関する件及び補正予算に関する件 9. 委員会委員の追加について 10. 専門医制度委員会関係 11. 委員会報告「慢性透析患者の食事療法基準」（透析会誌 47（5）：287～291，2014）の改訂に関する件 12. 「慢性腎臓病に対する食事療法基準 2014 年版」改訂および委員の推薦について 13. 日本腎臓学会「CKD 診療ガイドライン」改訂に伴う関連学会の査読に関する件 	<p>全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認</p>

(3) 各種委員会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
・総務委員会	「該 当 な し」	
・財務委員会 令和 4 年 9 月 5 日 令和 5 年 3 月 1 日	1. 2022 年度補正予算について 1. 2023 年度予算（案）について 2. 2023 年度新規事業計画に伴う概算要求（案）について 3. 2023 年度事業計画（案）について	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
・編集委員会 令和 4 年 6 月 13 日	1. RRT 誌の現状と課題について 2. RRT 誌契約更新について 3. RRT 誌の今後について	報告・承認 報告・承認 報告・承認
・学術委員会 令和 4 年 4 月 15 日	1. 学会賞・奨励賞の選考に関する件 2. コメディカルスタッフ研究助成基金運営規程の一部改正（案）に関する件	全会一致で承認 全会一致で承認
・統計調査委員会 令和 4 年 6 月 17 日	1. 2021 年調査のまとめ 2. 2021 年調査の現況報告案, CD-ROM 帳票案の提示 3. 2022 年調査項目・選択肢の検討 4. 統計調査データの二次利用について 5. 統計調査公募研究規程 6. 解析小委員会からの報告 7. 統計調査に関するあり方委員会（EDC 導入に係る講演会）報告	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
令和 4 年 8 月 5 日	1. 2021 年調査のまとめと今後の予定 2. 2021 年調査 CD-ROM 帳票 3. 2022 年調査内容の決定 4. WADDA システム自動集計 5. 統計調査データの二次利用について 6. 他団体へのデータ提供について 7. 2023 年学術集会委員会企画について	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
令和 4 年 9 月 7 日	1. 2022 年調査内容について 2. 2022 年調査内容について想定される Q&A についての確認 3. WADDA システム自動集計 4. 統計調査データの二次利用について 5. 2023 年学術集会委員会企画 6. 今後の開催日程	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
令和 4 年 10 月 19 日	1. 2022 年調査内容について 2. 2022 年調査内容の確認 3. 2021 年現況報告 4. 統計調査の二次利用について 5. 2023 年学術集会委員会企画 6. 公募研究 7. 今後の開催日程	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
令和 5 年 1 月 25 日	1. 2022 年調査の経過報告と今後のスケジュール 2. 2021 年現況報告 3. 2023 年度事業計画について 4. 第 68 回日本透析医学会統計調査委員会企画について 5. WADDA システム研究用データ 2000 年以前（1983～1999）データ復元について 6. 2019 年マグネシウムの集計について	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和 5 年 3 月 15 日	7. 統計調査用エクセルファイル目的外使用届の申請について 8. 地方自治体等からのデータの提供依頼について 9. 解析小委員会報告について 10. SharE-RR の報告について 1. 2022 年調査の経過報告と今後のスケジュール 2. 2021 年現況報告 新型コロナウイルスの集計について 3. 2019 年調査 マグネシウム・鉄に関する集計について 4. 2022 年度事業報告について 5. 2023 年度概算要求について 6. 2023 年末調査について 7. WADDA システム (研究用切り出しシステム) 今期発注分の変更内容 8. 解析小委員会からの報告 9. 研究申請の理事会取り下げ案件について 10. 研究倫理に関するセミナー依頼 11. 統計調査データ 各施設からの情報収集方法について 12. 公募研究 13. 理事会報告事項 14. 第 68 回日本透析医学会 統計調査委員会企画 15. 今後の開催日程等	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
・ 専門医制度委員会 令和 4 年 9 月 15 日 令和 4 年 11 月 14 日 令和 4 年 11 月 19 日	1. 2022 年度専門医認定申請書類審査について 2. 2022 年度専門医認定試験要項について 3. 2022 年度専門医認定試験について 4. 2022 年度セルフトレーニング問題について 1. 2022 年度専門医認定試験結果について 2. 試験結果の総括と来年度の課題について 1. 2022 年度認定施設・教育関連施設 (新規・更新) 審査結果報告について 2. 全国規模学術集会認定申請について	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 報告・承認 全会一致で承認 全会一致で承認
・ 国際学術交流委員会 令和 4 年 9 月 12 日	1. 第 68 回日本透析医学会学術集会・総会の国際学術交流委員会企画について	全会一致で承認
・ 評議員選出委員会	「該 当 な し」	
・ 保険委員会 令和 4 年 10 月 29 日 令和 5 年 3 月 31 日	1. 次期診療報酬改定に向けて今後の方針等について 2. 第 68 回日本透析医学会学術集会・総会の保険委員会企画について 3. 「重症度医療看護必要度」(内保連医療負荷度委員会) の項目の見直しについて 1. 現状の外保連, 厚労省, 秋野議員との相談内容についての報告 2. 2024 年度診療報酬改定の内保連申請に関して 3. 2024 年度診療報酬改定に向けた外保連提出に関して 4. 次次期の新規手術の外保連への提案に関して	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
・ 倫理委員会 令和 4 年 8 月 24 日 令和 4 年 9 月 21 日	1. 感染対策委員会「新型コロナウイルス感染症ワクチンの接種により得られる抗体価の経時的変化」に関する臨床研究の実施について(研究計画の追加・修正) 1. 日本透析医学会統計調査・臨床研究倫理審査について	全会一致で承認 全会一致で承認
・ 腎不全総合対策委員会	「該 当 な し」	

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
・危機管理委員会 令和4年12月2日	1. 令和3年度議事録について 2. 第68回学術集会・総会の災害対策小委員会の委員会企画 3. 第68回学術集会・総会の医療安全小委員会の委員会企画 4. 日本医療安全調査機構への協力について	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
・研究者の利益相反等 検討委員会 令和5年3月20日	1. 日本医学会による企業主催講演会における学術講演内容介入状況のアンケート調査報告書2023の情報共有 2. 日本透析医学会における企業主催講演会の内容調査について 3. 日本透析医学会における企業主催講演会についての基本方針 4. 「日本医学会 診療ガイドライン策定参加資格基準ガイダンス2023」一部改定(案)について	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
・男女共同参画推進 委員会	「該当なし」	
・感染対策委員会	「該当なし」	

⑤ 許可, 認可, 承認等に関する事項

申請月日	申請事項	許可等月日	備考
	「該当なし」		

⑥ 重要な契約に関する事項

契約年月日	相手方	契約の概要
	「該当なし」	

事業報告の附属明細書

1. 役員その他の法人等の業務執行理事等との重要な兼職状況

区 分	氏 名	兼 職 先 法 人 等	兼職の内容	関 係
理事長	武 本 佳 昭	特定非営利活動法人 日本血液透析濾過医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本透析アクセス医学会	監 事	一 部
		公益財団法人 大阪腎臓バンク	理 事	一 部
		一般社団法人 大阪透析研究会	理事長	一 部
		特定非営利活動法人 日本 HPM 研究会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	監 事	一 部
常任理事	阿 部 雅 紀	特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化 AI 学会	副理事長	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本急性血液浄化学会	理 事	一 部
	猪 阪 善 隆	一般社団法人 日本腎臓学会	副理事長	一 部
		一般社団法人 大阪透析研究会	幹 事	一 部
		公益財団法人 大阪腎臓バンク	理 事	一 部
		公益社団法人 大阪ハートクラブ	理 事	関係なし
		一般社団法人 日本腎代替療法医療専門職推進協会	理 事	一 部
	酒 井 謙	一般社団法人 日本腎移植学会	幹 事	ほぼ同一
		公益社団法人 日本透析医会	幹 事	ほぼ同一
		一般社団法人 日本腎代替療法医療専門職推進協会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本臨床腎移植学会	理 事	ほぼ同一
理 事	小 川 智 也	特定非営利活動法人 日本医工学治療学会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本サイコネフロロジー学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本透析アクセス医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本急性血液浄化学会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本アフレスシス学会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本在宅血液透析学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化 AI 学会	理 事	一 部
	菅 野 義 彦	一般社団法人 日本臨床栄養学会	理事長	関係なし
		一般社団法人 日本病態栄養学会	理 事	関係なし
		一般財団法人 日本栄養療法推進協議会	副理事長	関係なし
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	一 部
	菊 地 勘	公益社団法人 日本透析医会	理 事	ほぼ同一
		特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化 AI 学会	理 事	ほぼ同一
	高 橋 直 子	特定医療法人 あかね会	理 事	関係なし
		医療法人社団 誠風会	理 事	関係なし
	鶴 屋 和 彦	一般社団法人 日本腎臓学会	理 事	関係なし
	友 雅 司	特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本血液透析濾過医学会	理 事	一 部
		認定特定非営利活動法人 腎臓病早期発見推進機構	理 事	一 部

区 分	氏 名	兼 職 先 法 人 等	兼職の内容	関 係
理 事	友 雅 司	特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	副理事長	一 部
		特定非営利活動法人 ハイパフォーマンズ・メンブレン研究会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化 AI 学会	理 事	一 部
	花 房 規 男	一般社団法人 日本アフレスシス学会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本病態栄養学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本医工学治療学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	一 部
	平 和 伸 仁	特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化 AI 学会	代表理事	一 部
		一般社団法人 米国内科学会日本支部	理 事	一 部
	深 澤 瑞 也	特定非営利活動法人 日本透析アクセス医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 ハイパフォーマンズ・メンブレン研究会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本透析合併症医学会	理 事	一 部
	正 木 崇 生	一般社団法人 中国腎不全研究会	広島県理事	ほぼ同一
		特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化 AI 学会	理 事	ほぼ同一
		特定非営利活動法人 日本 HDF 医学会	理 事	ほぼ同一
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	ほぼ同一
	宮 崎 真 理 子	一般社団法人 日本腎臓リハビリテーション学会	理 事	ほぼ同一
特定非営利活動法人 日本腎臓病協会		理 事	一 部	
一般社団法人 日本腎臓学会		理 事	一 部	
脇 野 修	一般社団法人 日本腎臓学会	理 事	一 部	
監 事	内 田 潤 次	一般財団法人 大阪腎泌尿器疾患研究財団	理 事	関係なし
		公益財団法人 大阪腎臓バンク	理 事	関係なし
		一般社団法人 日本臨床腎臓移植学会	理 事	関係なし
		一般社団法人 大阪泌尿器科臨床医会	理 事	関係なし
	齋 藤 満	公益財団法人 あきた移植医療協会	理 事	関係なし
	鷺 田 直 輝	特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	一 部

2. その他の記載事項

その他事業報告の内容を補足する重要な事項はない。